

## TOPICS

## アメリカのデザイン開発技術 —ユニバーサルデザインの最新動向の調査—

デザイン開発室 餘久保優子(よくぼ ゆうこ)  
yokubo@iriii.jp

専門：福祉・ユニバーサルデザイン、3Dデザイン  
一言：人に優しいモノづくりを支援します。



日本では超高齢社会の進行に伴い、障がい者人口が増加しています。国連でも、世界人口の約15%にあたる10億人が障がいを持っており、今後も増加すると発表しています。あらゆる製品開発において高齢者・障がい者への使い易さの配慮が求められるなか、工業試験場では石川県リハビリテーションセンターと連携して、県内企業の福祉・ユニバーサルデザイン製品の開発支援を行っています。そこで、昨年10月にユニバーサルデザインの先進国であるアメリカを訪問し最新技術や活用事例を調査しました。

長年ユニバーサルデザインの研究に取り組んでいる

ニューヨーク州立大学バッファロー校にある非営利組織IDeA(インクルーシヴデザインセンター)では、図1のようにGoogleマップと3Dプリンタで製作した触れる地図を組み合わせて、触覚と音声で案内するマルチセンサマップの研究開発に取り組んでいます。この技術は美術館や学校等の公共施設の案内で試験的に利用されています。また、車内で車椅子の車輪を左右から挟んで、簡易に固定する電動アームの研究開発等も行われており、障がい者も利用しやすい自動運転小型車両に採用されています(図2)。

今回の調査で得られた情報や人脈を活かし、県内企業が取り組む人に優しいモノづくりを支援することで、より多くの人々を対象とした競争力の高い製品開発が推進されるよう努めていきます。



図1 マルチセンサマップ



図2 自動運転小型車両